

ルター

2016 年追試

問 1 16 世紀ヨーロッパの宗教改革の説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 

29
----

- ① ルターは、人間が神によって義とされるのは、教会の定める儀式や善行によってではなく、もっぱら信仰によってであると主張した。
- ② ルターは、主著『神学大全』において、僧侶の腐敗を鋭く批判し、教会のもつ既存の権威や権力に対して抵抗しなければならないと主張した。
- ③ カルヴァンは、神の栄光を実現するために、神から与えられた神聖な義務としての職業に勤勉に励むべきであると主張した。
- ④ カルヴァンは、主著『キリスト教綱要』において、神に対する人間の絶対服従を強調し、厳格な神学に基づく教会改革が必要だと主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	29	②	2

2014 年追試

問 4 西洋近代思想における，キリスト教や神，信仰の捉え方についての説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① パスカルは，実存的生き方の最高段階を「宗教的実存」と呼び，偉大さと悲惨さの間を揺れ動く人間の不安定なあり方を直視しつつ，神の愛のもとに生きることの大切さを説いた。
- ② ルターは，教会を通じてこそ信仰が成り立ち，救済がなされるという従来のキリスト教のあり方を批判して，聖書を通じて一人ひとりが直接神と向き合う信仰の重要性を唱えた。
- ③ スピノザは，「神即自然」，すなわち神は無限で永遠の唯一の実体であり，自然そのものであるとして，すべての事物を，神を表現するものとして「永遠の相のもとに」見ることの重要性を主張した。
- ④ ウェーバーは，プロテスタンティズムの禁欲的な職業倫理が資本主義の精神を生み出したと考え，キリスト教信仰と近代産業社会の関係について新たな捉え方を示した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	32	①	3

2013 年本試

問 1 ルターの著作として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 『愚神礼讃(痴愚神礼讃)』
- ② 『キリスト者の自由』
- ③ 『キリスト教綱要』
- ④ 『人間の尊厳について』

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 1	30	②	2

2011 年本試

問 3 宗教改革の始まりに大きな役割を果たしたのがルターである。ルターの思想の説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

25
----

- ① 神の前ではすべてのキリスト者は平等であり，教会の権威によってではなく，自己の信仰心によって直接神と向き合う。そして，聖書のみがキリスト教の信仰のよりどころである。
- ② どの人間が救われるかは，神の意志によってあらかじめ定められており，各人が聖書の教えに従って，神への奉仕として世俗の職業生活に励むことが，救いの確証になり得る。
- ③ 聖書に説かれた信仰の真理と自然の光に基づく理性の真理とは区別されるが，両者は矛盾するのではなく，理性の真理が信仰の真理に従うことによって互いに補足し合い調和する。
- ④ キリスト者は，すべてのものの上に立つ自由な主人であって，誰にも従属していない。したがって，農民が教会や領主の支配に対抗して暴徒化することには十分な理由がある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	25	①	2